

実践報告

札幌市立常盤小学校

(1) 研究内容

研究課題：サッポロピリカコタンを活用した授業の研究

- 豊かな体験を通して、自然や人とのかかわりを深め、生命を尊重する心と美しいものに感動する心を育成する。好ましい人間関係の確立や生命尊重の心を育成し、考える場や体験・実践の場を通じて人権意識の深化を図る。

(2) 実践の内容

【実践①】総合的な学習の時間の実践について

○ ねらい

- ・体験活動を通じてアイヌ民族の文化に親しむ。
- ・アイヌ民族の方との交流を通し、人権意識の確立を図る。

○ 学習内容

- ・文化財等の実物に触れたり歌や踊りを体験したりする活動を行うことでアイヌ民族の文化に親しみ、アイヌ民族の昔の暮らしを実感した。
- ・訪問学習の事後にこれまで学習してきたアイヌ文化にかかわる題材（アイヌ文様・アイヌ語など）を活用して発表交流の場を設定し、学習の深化・発展・定着を図った。
- ・「知ること」「理解すること」を大切にし、人権意識を高めることにつなげていった。



【実践②】社会科の実践について

○ ねらい

- ・展示物や施設を見学し、アイヌ民族の文化と歴史についての一層の理解を図る。

○ 学習内容

- ・社会科の学習と関連させ、あらかじめアイヌ文化や北海道の歴史を学習してから訪問した。アイヌの理解を深めるため、札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」の展示物や施設を見学し、遊びなどの体験プログラムを活用した学習を行った。
- ・昔の家や狩りに使っていた道具、「アツシ」等、アイヌの昔の生活が分かるものがあり、教科書の写真でしか見たことのないものを説明してもらい、自分の目で見ながら学ぶことができた。



(3) 研究のまとめ

① 成果

インターネットや本など資料でしか見ることのなかったアイヌ民族の文化に触れたり、実際に交流したりすることで、親しみをもってアイヌのことを語れる子どもたちになってほしいと考えた。

サッポロピリカコタンの施設を利用し、アイヌ民族の方が使っていた道具や服などの実物を見ることができた。写真や資料で見るとよりも、直接自分の目で見ること、より実感の伴った学習をすることができたと感じた。

今回のプログラムで、アイヌ民族の方に実際にお話を聞いたり、一緒に遊んだりする活動をすることで、身近にアイヌの存在を感じることができ、人権に対する意識を高めることができたと考える。

② 課題

身近にアイヌ民族の方がいても偏見をもった目で見ることなく、他の人と同じく接することができる意識をより一層育てていきたい。学校として授業では学習しているが、授業以外にどのような取組ができるか考えていきたい。

③ 提言「人権教育のすすめ」

・アイヌ民族を理解する

4年生の子どもたちには、アイヌ民族に関する知識が多いとは言えない。また、アイヌ民族の歴史について関心のある子はいるが、実感をもって考えるなど人権意識が高いとは言えない。まずは理解を深めていくことが大切であると考え。アイヌ民族の文化や生活、歴史について教科書等の資料だけではなく、今回のような実物に触れたり、体験したりすることが、身近に感じ考えていく上で必要である。そして、アイヌ民族に対し具体的にどのような差別があるのかも知ることが必要である。現状を知ること、人権に対する意識が育まれると考える。

・日常でアイヌ民族を感じる

普段の生活からアイヌ民族に関係する事柄に触れさせることが大切である。本校では掲示板に世界の挨拶を掲示している。その中に、英語や中国語、ロシア語などと共にアイヌ語の挨拶を掲示している。日常の中にアイヌ民族を感じられる環境を作っていかなければ理解は進まない。子どもの時期からアイヌ民族が特別な存在ではないという認識をもつように指導していかなくてはならないと考える。

